

交通安全テスト

(中学・高校生用)

正しいものには○を、まちがっているものには×を記入してください。

- ① 自転車で走行中、前方に車が止まっているのを見つけたが、反対側から車や自転車が来ていなかったため、そのまま止まっている車の横を通りすぎた。

☐

- ② 自転車で踏切を横断する時は、直ちに停止することが出来る速度で、安全を確認しながら横断する。

☐

- ③ 自転車で「自転車歩道通行可」の標識がある歩道を通行する際は、歩道の車道寄りを通行するとともに、歩行者の通行を妨げるおそれがあるときは徐行しなければならない。

☐

- ④ 自転車は道路の中央より、右側を走行しなければならない。

☐

- ⑤ 自転車で走行中、後ろから緊急自動車が近づいてきたとき、交差点やその付近では、交差点を避けて道路の左端に寄って一時停止する。

☐

交通安全テスト

令和2年1月号

解答・解説 (中学・高校生用)

- ① 自転車で走行中、前方に車が止まっているのを見つけたが、反対側から車や自転車が来ていなかったのに、そのまま止まっている車の横を通りすぎた。【×】

A：そのまま車の横を走らず、注意して十分速度を落としましょう。

- 交通の方法に関する教則第3章第2節4（歩行者などに対する注意（抜粋））

（3）停車中の自動車のそばを通るときは、急にドアが開いたり、自動車の陰から歩行者が飛び出したりすることがありますから、注意して十分速度を落としましょう。

<指導のポイント>

駐車している車のドアが急に開いたり、車の陰から歩行者が飛び出してくることがありますので、速度を落とし、しっかりと安全確認をしましょう。

- ② 自転車で踏切を横断する時は、直ちに停止することが出来る速度で、安全を確認しながら横断する。【×】

A：踏切の直前で停止し、安全を確認した後、押して渡るようにしましょう。

- 道路交通法第33条第1項（踏切の通過（抜粋））

車両等は、踏切を通過しようとするときは、踏切の直前（道路標識等による停止線が設けられているときは、その停止線の直前。）で停止し、かつ、安全であることを確認した後でなければ進行してはならない。

- 交通の方法に関する教則 第3章第2節2（走行上の注意（抜粋））

（6）踏切では、一時停止をし、安全を確かめなければなりません。踏切では、自転車を押して渡るようにしましょう。

<指導のポイント>

踏切では、渡る前に必ず一時停止をし、安全を確認してから自転車を押して渡るようにしましょう。

また、踏切の警報器が鳴っているときや遮断機が降り始めてからは踏切に入ってはいけません。

- ③ 自転車で「自転車歩道通行可」の標識がある歩道を通行する際は、歩道の車道寄りを通行するとともに、歩行者の通行を妨げるおそれがあるときは徐行しなければならない。【×】

A：歩道の中央から車道寄りの部分をすぐに止まれるような速度で走行し、歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止しましょう。

※ 道路交通法第63条の4第1項（自転車の歩道通行：概要）

道路交通法施行令第26条（普通自転車により歩道を通行することができる者）

- ・ 自転車歩道通行可の道路標識等がある場合
- ・ 児童及び幼児（13歳未満の子ども）
70歳以上の者
身体の不自由な人
の場合



自転車歩道通行可



歩道通行可を示す標識

- ・ 道路工事をしているとき、駐車車両や交通量が多いなど、車道を安全に通行できない

い場合は、歩道を通行することができる。

● 道路交通法第63条の4第2項（自転車の歩道通行（抜粋））

普通自転車は、当該歩道の中央から車道寄りの部分（道路標識等により普通自転車が通行すべき部分として指定された普通自転車通行指定部分があるときは、当該普通自転車通行指定部分）を徐行しなければならず、また、普通自転車の進行が歩行者の通行を妨げることとなるときは、一時停止しなければならない。

ただし、普通自転車通行指定部分については、当該普通自転車通行指定部分を通行し、又は通行しようとする歩行者がないときは、歩道の状況に応じた安全な速度と方法で進行することができる。

● 交通の方法に関する教則第3章第2節2（走行上の注意（抜粋））

(8) 歩道を通るときは、普通自転車は、歩行者優先で通行しなければなりません。この場合、次の方法により通行しなければなりません。

ア すぐ停止できるような速度で徐行すること。ただし、白線と自転車の標示によって指定された部分がある歩道において、その部分を通行し、又は通行しようとする歩行者がいなく、歩道の状況に応じた安全な速度（すぐ徐行に移ることができるような速度）と方法でその部分を通行することができます。

イ 歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は、一時停止すること。

<指導のポイント>

歩道は歩行者優先ですので、自転車は歩行者の通行を妨げないように歩道の車道寄りを徐行しなければなりません。

また、スピードを出して歩道を走行することは非常に危険ですので、やめましょう。

④ 自転車は道路の中央より、右側を走行しなければならない。【×】

A：道路の左端を走行しなければならない。

● 道路交通法第17条第4項（通行区分（抜粋））

車両は、道路（歩道等と車道の区別のある道路においては車道。）の中央から左の部分を通行しなければならない。

● 道路交通法第18条第1項（左側寄り通行等（抜粋））

車両（トロリーバスを除く。）は、車両通行帯の設けられた道路を通行する場合を除き、自動車及び原動機付自転車にあっては道路の左側に寄って、軽車両にあっては道路の左側端に寄って、それぞれ当該道路を通行しなければならない。

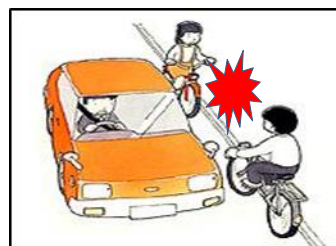
※ 道路交通法第2条第1項第8号・第11号（概要）

- ・ 車両とは自動車、原動機付自転車、軽車両及びトロリーバスをいう。
- ・ 自転車は、軽車両に分類される。

<指導のポイント>

車は左側通行です。

車の仲間である自転車も左側通行となり、車道の左側端を通行しなければなりません。



⑤ 自転車で走行中、後ろから緊急自動車が近づいてきたとき、交差点やその付近では、交差点を避けて道路の左端に寄って一時停止する。【○】

A：交差点やその付近で緊急自動車が接近してきたときは、交差点を避け、道路の左側に寄って一時停止しなければなりません。

● 道路交通法第40条第1項（緊急自動車の優先（抜粋））

交差点又はその附近において、緊急自動車が接近してきたときは、路面電車は交差点を避けて、車両（緊急自動車を除く。）は交差点を避け、かつ、道路の左側（一方通行となっている道路においてその左側に寄ることが緊急自動車の通行を妨げることとなる場合にあっては、道路の右側。）に寄って一時停止しなければならない。

<指導のポイント>

パトカーや救急車等の緊急自動車が近づいてきたときは交差点を避け、道路の左側に寄って一時停止しましょう。